

新潟・ガスプロダクツ分会を結成

仲間と力を合わせ、安心して働ける職場へ



8月23日（日）、新潟トラック支部ガスプロダクツ分会の結成大会が開催されました。大会には、分会組合員3名をはじめ、永島新潟県本部委員長、相澤全国酸素部会長など18名が参加しました。

大会では、組合結成に至った経過を確認するとともに、労働者の生活と権利を守り、職場の労働条件改善をめざして、組合員が力を合わせて活動していくことを確認しました。また、建交労第27回定期大会で確立された方針を全体で確認し、今後の組合活動を力強く進めていく決意を固めました。

職場で起こるさまざまな問題を一人で抱え込むのではなく、仲間同士で話し合い、支え合い、力を合わせて解決していくことが労働組合の大切な役割です。結成大会を新たな出発点として、組合員の要求実現と職場環境の改善、安心して働き続けられる職場づくりに向けて、分会一丸となって取り組んでいきます。

大会の最後には、参加者全員で「団結ガンバロー！」を力強く三唱し、新たな組合活動への決意を確認して閉会しました。新しく結成されたガスプロダクツ分会の仲間が、日々の対話と団結を大切にしながら、一歩ずつ要求を実現し、働きやすい職場をつくっていくことを期待しています。全国の仲間とともに力を合わせ、ガスプロダクツ分会のこれからの活動を応援していきます。

中央大学小尾ゼミ共同で実態調査

厳しい暑さの中、ドライバーと直接対話し実態を確認



調査では、「国は荷待ち時間が減少し、長時間労働が改善した」としているが、現場ではどう感じるか」との質問に対し、「そんなことはない」「どこのデータなのか分からない」「荷待ちは今も変わらない」といった回答が数



8月24日、建交労全国トラック部会は、中央大学経済学部小尾ゼミナールと共同で、東神トラックステーションにおいてトラックドライバーへの実態調査を実施しました。今回の調査は、5月に行った全国トラック部会へのインタビューを受け、建交労が実施している実態アンケート結果をさらに深め、現場の生の声を聞くことを目的に実施したものです。学生が作成したアンケートでは、2024年問題以降の荷待ち時間や予約受付システムの実態、労働時間短縮の効果などについて質問を行いました。

当日は、久しぶりの厳しい暑さとなり、アスファルトの照り返しや大型トラックのエンジン熱が続く中、学生5人と建交労から上村副部長、鈴木事務局長、相馬中央本部書記の3人の計8人が2班に分かれて調査を実施しました。午前から午後3時まで聞き取りを続け、24人のトラックドライバーから貴重な声を集めることができました。

多く寄せられました。また、予約受付システムについても、施設外で時間調整のために待機せざるを得ない実態などが語られ、国の統計だけでは見えない現場の課題が改めて浮き彫りとなりました。

調査に参加した学生たちは、現場の率直な声を直接聞くことができたことに大きな手応えを感じ、「インタビューだけでは分からなかった実態を知ることができた」と話していました。今後は今回の調査結果を分析・整理し、11月に開催される大学でのプレゼンテーションに向けて研究をまとめていく予定です。

建交労全国トラック部会としても、学生が現場の実態に触れながら物流業界の課題を研究するこうした取り組みを通じて、トラック運輸産業の実情が広く社会に伝わることを期待しています。